

アトムフェスティバルについて

田丸 あけみ

10月15日(土)に4,5歳児を対象としたアトムフェスティバルが行われます。

3年前までは、3歳児もフェスに参加していましたが、3歳児の姿を見ていると、非日常の中で自分をコントロールする事が難しく、緊張感だけが増し、大勢の人の前に出るだけで精一杯でした。

しかし、4,5歳児ともなれば、自分のやりたい事が明確になり、自分の意思で考え、自己決定ができ、楽しむ事が出来る年齢になってきます。(中には緊張の高い子もちろんいますが)

そういった子どもの姿を見ながら、再度職員間で検討し、3年前から対象を4,5歳児のみとしています。

フェスで大事にしている事は、日頃から保育で大事にしている事と同じです。自己表現を大事にし、一人一人の個性を大切にすることです。内容も子ども自身が、自分達でやりたい事を考えて決めていきます。過去には、スキー・おにごっこ・ままごと・自転車乗りなど、ユーモアたっぷりの内容を考え、工夫し取り組んできました。

子ども達の中には、一度決めた事でも、また違うアイデアが浮かんで一から考え直すという事もよくあることです。フェス当日も、急遽やりたい事を変更した子もいました。

子ども達は、フェス当日までのプロセスの中で、心をたくさん動かしながら、当日を迎えます。それは取り組み決めだけではなく、友達と意見が食い違い我慢して折り合いをつけたり、恥かしいけどやってみたいと葛藤したり、格好いい所を見てほしくて張り切っていたりと、心の動きは様々です。

当日は、「やりたくない」と表現する子もいますが、それもよし!なのです。「やりたくない」の心の奥には、葛藤する気持ちがあります。その気持ちを保育士が受け止めながら“では、どうする?どうしたい?”と投げかけながら、その子が“したい事”“出来る事”を自分で決めます。

それが、応援でも、見ているだけでもいいのです。“全員一緒に事をする、させる事”が大事なのではなく、ひとりひとりの子ども達が、自己表現し、自己決定する体験が大事なのです。

もう一つ大事にしている事は、子ども達の個性の発見です。

フェスまでのプロセスを通して、子どもの意外な一面を発見する事もよくあります。普段、おとなしく見える子もいざと言う時は負けん気が強くなる子、何事もすぐに諦める子だったのに、自分のやりたい事が見つかり、凄く粘る姿を見せてくれる子など、その都度、子どもの新たな個性の発見を保護者と保育士が共有しながら、更に子ども理解を深めていきます。反対に保育園では、見せない姿を、家で見せたりする子もいます。

大人が我が子、他の子を見る時“出来る、出来ない”という評価の目で見るとは、子どもの表現する裏側や表情の奥にはどんな思いがあるのか?と一人ひとりの子どもの個性を見てあげてほしいのです。

幼少期は、安心した大人との関係の中で自分の気持ちを表現し、それを聞いてもらえる体験、受け止めてもらえる体験を、たくさん肌と心で感じてほしいと思っています。

出来栄えは気にしない「子ども達の為の子ども達がつくるアトムフェスティバル」です。

当日は、いつもと違う雰囲気の中、緊張している子もきっといます。

その中で、見えてくる子ども達一人ひとりの表現を、子ども達の自己紹介と捉え見守ってあげてください。

そして、子ども達に温かい拍手をよろしくお願いします。